

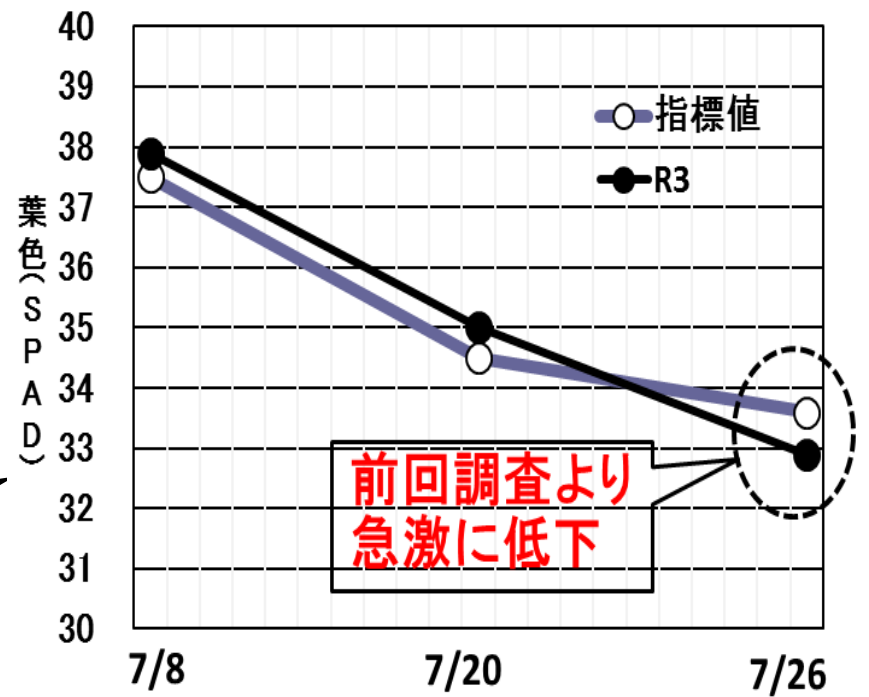
緊急

追加穂肥と水管理で 後期栄養確保！

＜7月26日の葉色＞

- 前回調査(7/20)より急激に低下(前回値-2.1)している。
- 穂肥施用により葉色が維持されているほ場も見られるが、全般的には指標値より低い。
- 今後も高温気象が予想され、急激な葉色の低下が懸念される。

普及指導センター調査ほ



栄養凋落による品質低下が心配

【今後の管理のポイント】

～これ以上、葉色を低下させないための対策～

- ① 2回目穂肥はしっかり施用**
- ② 追加穂肥(3回目穂肥)の施用**

暑い夏でも
元気なイネ！

2回目穂肥後も葉色低下がみられるほ場や、葉色がさめているほ場は、下記を参考に追加穂肥を検討する。

区分	追加穂肥が必要な稲姿	施肥時期	施肥量の目安
分施	【化学肥料使用】 出穂期3日前の葉色がSPAD値31 (葉色板 単葉 4.2)以下の時	出穂期3日前まで (走り穂が出る頃)	窒素成分 1kg/10a 以下
	【有機50%肥料使用】 出穂期6日前の葉色がSPAD値33 (葉色板 単葉 4.4)以下の時	出穂期3日前まで	
基肥一発	【化学肥料使用】 出穂期までの葉色がSPAD32～33 (葉色板 単葉 4.3～4.5)を 下回ると予想される場合	出穂期10日前	



フェーン緊急情報も
いち早く配信します。

JA 稲作携帯メール
ぜひご登録を！



申込者用 QRコード

③ 水管理で稲体の活力維持

飽水管理(土壌を湿潤状態に保つ)により、土壌からの窒素供給を図る。

農作業時の熱中症対策は万全に！